

# 会報

No. 17

昭和63年11月26日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL(075)771-0069

## 「知るは樂し 本とのであり」

京都市伏見中央図書館長

津村俊勝

記憶としてなまなましい。

大学三年のときのことだった。私とおなじく西洋史学を専攻していたある友人が、絶版になっているはずの洋書をつぎつぎと入手するのを見てうらやましく、また、不思議でならなかつた。

そこでそのわけをたずねると、某百貨店の洋書部の女性職員が、実にこまめに欧米書店に連絡をとり発掘してくれるのだという。そのうえに、彼女は背がすらりとして、その所作がさており、いわば生気の美ともいうべき容姿の持ち主だとつけ加えた。

彼の言ひぶりに何か熱い光彩を感じた私は、すかさず君の恋人か、とぶしつけに切り込んでいた。ところが意外と、彼はとんでもないという表情で、書物の注文に関してはとにかく弟のようによく面倒を見ててくれるのだ、という弁明をくり返したのである。

いつしか私もその百貨店の洋書部に通うようになっていた。なかばあきらめていた本を手にしてページを繰るときの心のときめきは、いまも

いまから思えば、探し求める一冊の本を介して、仕事上の事務的な冷淡さとはほど遠い「愛知」の共感（シンパシー）が、彼女と私たち向学の若者たちの間に芽生えていたのかも知れない。

共感といえば、今西錦司先生の若

いころの体験談がよみがえってくる。ひと群れの鳥が相当なスピードで飛んでいて、その群れがあたかも一本の神経で行動しているかのように、バッと一斉に方向変換する。それは実に鮮やかで、鳥同士が衝突することは絶対にない。なぜだろう。

先生はそのわけを集団的直感力によるとみなされ、それは、共通の場所を共有することによって生まれる共感を基礎として成り立つと考えられた。

おなじ目的をもち、共通の場で共に働く中で醸成される共感は、充実した図書館を創造する集団的直感力を必ずはぐくんでくれると思つていい。加えてこれからも執心していくのは、利用されるお客様と私たち職員の間に、私が若いころ体験したような「愛知」の共感が波紋となつてひろがっていくことである。



ところで、本稿の題名「知るは樂し 本とのであり」は、伏見中央図書館のシンボル標語である。去る八月二十八日で開館後まる一年を経過したが、その間の貸出冊数は四十万冊を越え、利用者数は十九万人に近く、登録者数は二万五千人を突破した。四十万冊といえば、約一億円で購入した五万冊の本が八回転したことになり、一億円が八億円の効果をあげたことになる。たいへん有効な投資だったといえよう。

開館をめざしてとり組んできた私たち職員は、それぞれがつた個性、教養、趣味をもち、年齢もさまざまの集まりである。それはちょうど管弦楽団が同じ楽器の集まりでないのに似ている。しかし全体としては、調和のある美しい音色をだすのである。

# 図書館めぐり

京都府のほぼ中央に位置する和知町は、清流由良川と長老山にいだかれた自然あふれる町です。

## 和知町中央公民館

その和知町の中央公民館に、昭和五十七年九月、図書室がオープンしました。開設当時三、四五〇冊だった蔵書も一、四七〇冊に増え、それに伴って、昭和六十一年に拡張工事を行い、ゆったりしたスペースで利用してもらえるようになりました。

利用状況は、登録者数が町の人口の三〇%に当たる一、三六七人で、六十二年度の利用者は五、〇六七人、貸出冊数は八、一八九冊でした。このうち三〇%は移動図書「みどり号」によるものです。和知町は集落が散在し、交通の便も悪いということから、図書室の開設とともに移動図書も始め、毎週火曜日各集落を巡回しています。また、毎年夏休みにはこの巡回にあわせて子供達に紙芝居を行っています。

今年の九月には、駅舎を改築した「ふれあいハウス」に府立図書館の協力を得て図書室ができました。場所柄、公民館図書室や移動図書とは

違った層の利用があります。今後も小さな図書室は小さいなりに、利用者とのふれあいを大切にし、活動していきたいと思っています。



## 京都市山科図書館

建物は、木造二階建て、一階には、児童・成人書貸出コーナーを設けた図書室があつ



### 館長の異動

久御山町立図書館

新 森 田 和 義  
旧 田 口 清

て、当館の蔵書約四万五千冊の大半が、この階に配架されております。二階には、五十人余の席を設けた閲

館作りの一環として、映画・大型紙芝居・ビデオ等の行事を行ったり、季節に応じた図書を配架している特設コーナーを設置し、利用者の便宜を図っております。

当館の六十二年度の実績によりますと、一日七二一冊の図書を貸出ししており、登録者数も九千九百六十二人になっております。

これからも区民の生涯教育の場になるよう条件整備の充実に、職員一同努力してまいりたいと考えております。

昭和二十七年に京都市社会教育会館山科分館として、蔵書五百冊でスタートし、昭和四十八年に現在地に移転してきました。周囲には、名所・旧跡が多くありますが、赤穂浪士で有名な大石内蔵助ゆかりの「大石神社」「岩屋寺」の史跡があります。

在「逐次刊行物所蔵目録・改訂版」の編集作業を進めていた。広報委員会からは今年度二号目の会報の発行について、それぞれ報告されました。また、三つの専門委員会の委員長印の作成（文書発送時等に必要）について提案され、了承されました。

### 第一回理事会報告

今年度第二回目の理事会が十月十六日府立図書館で開かれ、来年度予算に関する要望書等の提出を中心

に協議されました。

国の社教審の中間報告等にもみられる通り、公共図書館は、生涯学習を進める上で最も基本的で重要な施設として位置づけられるようになつ

てきており、今年度も関係機関に公立図書館振興に関する要望書等を提出することになりました。

次に、各専門委員会から報告があ

り、研修研究委員会からは三つのグループの研究活動を軌道にのせたい旨の報告があり、相互協力委員会か

らは来年一月印刷発注を目指し、現在「逐次刊行物所蔵目録・改訂版」の編集作業を進めていた。広報委員会からは今年度二号目の会報の発行について、それぞれ報告されました。

また、三つの専門委員会の委員長印の作成（文書発送時等に必要）について提案され、了承されました。

## 児童奉仕研究グループ

### の活動について

(3)



前代表 城戸 進

(八幡市民図書館)

六十一年十一月に児童奉仕研究グループの第一回研究会を開催しました。児童奉仕において切実なテーマは何かと検討した結果、児童書の選定がテーマとなりました。

まず各館の選書方法、問題点、購入状況など発表して一覧表にまとめたり、各自が実際に選んだ絵本を紹介したりなど試行を重ねた結果、選書の基準やチェック・ポイントの確立など、このテーマを深めていくにはまだ各自の力量を高めなければならぬという結論に到達しました。そこで先達の講師をお招きして児童書の選定に関する連続講座を開催して、当グループの水準の向上をめざすようになりました。

折角、他府県から講師に来て頂くのであれば、児童奉仕研究グループ

以外の方にも参加してもらおうと児童書選書研究講座の連続開催とし、京団協全参加館に案内しました。

まず第一講は川上博幸氏（当時枚方市立菅原図書館長）で、三回に渡る講義は児童書の選定総論と各論（絵本、文学作品、知識の本、その他）でした。毎回ぎっしり書き込んであるレジュメに即しての講義は、実務的できめ細かな内容でした。

第二講は小寺啓章氏（太子町立図書館長）に、具体的な選書以前の問題であり、又選書を支える理念でもある子供や人間を深く知る事を通じて、児童奉仕や選書について論じて頂きました。二冊の課題図書（「人間であること」「子どもとことば」岩波新書）を読んでの参加で、それらを基に「人はなぜ本を読むのか？」との本質的設問から、「よりよく生きる人間に必要なものとしての本」を、「子供と本のもたらす喜びを分かちあう姿勢」で選書する必要を力説されていました。

第三講は小前恭則氏（大阪市立阿倍野図書館員）で、選書と配架（絵本について）、選書と書評（読物について）と二回の講義はかなり高度な内容でした。最後の第九回研究会（六十三年七月）まで毎回二十名以上

の参加がありました。

## 便利になつた 移動図書館

京都市中央図書館

図書館の利用が困難な地域を巡回している京都市中央図書館の移動図書館が、本年九月十九日から巡回地域を大幅に拡大して、今まで回っていたなかった地域にも巡回を始めました。

また、これまで読書団体などに加入しておられる方のみを対象としていましたが、広く市民の皆さんを対象とする個人貸出制度に変え、どなたでもご利用いただけるようになりました。

貸出冊数は、一人五冊以内で、貸出期間は次の巡回日までの約一ヶ月となっています。

## C D 導入

向日市立図書館

ドホンで聞けるように設けてあります。開館四年目の昭和六十三年度に、新たにコンパクトディスク（C・D）を加え、クラシック音楽からボビューラー音楽、邦楽、童謡、漫才、朗読テープまで約六百タイトルを収集しました。資料は全て自館で分類してデータを打ち込みMARC化してありますので、タイトル検索の他作曲者、演奏者等からの検索や、利用に関する統計もコンピューターで簡単に処理が出来るようになります。

幼児から老年寄りまであらゆる層に人気がありよく利用されていますが、今後も毎年度購入をしてタイトル数を増やしていくといきたいと考えています。特にC・Dは、レコードに比べコンパクトであり、カセットテープよりも取扱いが簡単な上収録量も多く、これからも聴覚資料として注目すべきだと思われます。

## 近畿地区研究集会日程

向日市立図書館では、聴覚資料として昭和五十九年十一月の開館当初からレコードとカセットテープを置いています。館内の中庭に面した新聞・雑誌コーナーとして四席へ

○近公図参考事務研究集会 京都府

二月一日

す。館内の中庭に面した新聞・雑誌コーナーとして四席へ

○近公図参考事務研究集会 京都府

二月九日

## 夏休み読書子ども会

峰山町立図書館



例年八月一日開催の「夏休み読書子ども会」が今年二十回目を迎え、百人近い子どもや父兄の参加を得て、町中央公民館で開かれました。テレビの普及で子どもたちの読書離れが話題となつた頃、なんとか読書の楽しさを取り戻し、長い夏休みの読書生活の端緒、指標になればと始められたものです。

町内の各小学校から全学年数名ずつ二十二名の代表が出て、読書の感想、思い出、本との出会いなど感性豊かな読書感想文を発表しました。次いでオタノシミタイムでは、お話を、映画、紙芝居、人形劇、手品、工作（今年は皿まわし曲芸とキイホルダー作り）などをして、有意義な一日を過すことができました。

## 研修研究委員会ニュース

63年度の当委員会は、7月7日（木）にその事業の大綱を決めたことは既報（No16）のとおりですが、その他の活動及び計画などは下記のとおりです。

### 1 京都家庭文庫地域文庫連絡会との共催事業 (講演会)について

- (1) 日 時 昭和64年1月23日（月） 予定
- (2) 場 所 京都府立勤労会館
- (3) 講 師 増山 均 氏  
(日本福祉大学助教授)
- (4) 演 題 「子育てについて」（仮題）  
なお、細部について具体化しましたら、別途お知らせします。

### 2 研修会について

- (1) 日 時 昭和64年3月初旬 予定
- (2) 場 所 峰山町立図書館
- (3) テーマ 小規模図書館の課題

### 広報委員会だより

今年も、鴨川には冬を告げるユリカモメが飛来して、優美な姿を川面に映しています。

今号には、京都市伏見中央図書館長の津村俊勝氏から、原稿をいただきました。

前号から掲載を始めました「図書

館めぐり」では、府下の図書館を、出来るだけ紹介して行きたいと考えています。

本紙に関するニュースや行事等の情報をお寄せ下さい。

- (4) 発 表 峰山町立図書館 予定  
丹後町中央公民館 予定
- (5) その他 図書館広報資料の交換  
なお、細部について具体化しましたら、別途お知らせします。

### 3 研究会について

- (1) 児童奉仕研究会
  - ア 6月3日、テーマ：「選書と配架」  
一主に絵本一、講師：小前恭則氏（大阪市立阿倍野図書館） 参加者22名
  - イ 7月1日、テーマ：「選書と書評」  
一主に読み物一、講師：小前恭則氏  
(同上) 参加者21名
  - ウ なお、両研究会とも高度な内容の講演と実りの多い研究会で、前リーダーの城戸氏（八幡市民図書館）にお世話いただきました。
- (2) 障害者奉仕研究会
  - ア 障害者奉仕の“実態調査（府下）”  
<前年度事業>のまとめと報告を年度内に予定。
  - イ 今年度の研究目標は検討中
- (3) 参考事務研究会
  - ア 前年度5回の事例研究会（参加者延54名）を実施し、ひと区切りをつけました。
  - イ 10月6日（木）、テーマ：「レファレンスと私－参考事務の原点を考える」  
講師：浜辺府立図書館長で質疑応答、参加者28名
  - ウ 次回の研究目標は検討中。年度内1～2回を予定しています。